## ■背中を押して出場させる

試合は直接打撃の組手だけに痛くて怖いものです。それに、負けたら恥ずかしいものですから、気の弱い子は出場をためらいます。ですが、試合においては、勝ち負けの結果よりも“勝ち方や負け方”がとても大切で、負けた時の身の処し方や悔しいけれど負けを潔く認める心の広さを学ばせるチャンスなので「勝っても負けても勉強だ。負けて勉強になることもある」そう言って出させています。大事なことは強そうな相手にも、怖いながら立ち向かったということです。負けるのがイヤと尻込みせずにやるだけやってみろよと、背中を押しているわけなのです。

直接打撃の組手は痛くて怖い。しかし怖いながらも立ち向かう。

## ■感動をくれた子を称える

勇気を持って出場してくれただけに、勝った子ばかりでなくたとえ負けても怖さに耐えて頑張った子に賞を贈ることもしています。たとえ負けてもすごく頑張って私たちが感動をもらった子には、勝ち負け関係なく与えます。もちろん勝つことに越したことはありませんが、しかしたとえ負けても称えてあげているのです。この、負けた子にも賞があることはキッズ大会の特長の一つでしょう。
このような賞を授与することで、痛みやつらさに堪えて、倦まず弛まず努力することの大切さを教えているわけです。

つらさに堪えて、倦まず弛まず努力する。

## ■浄財を頂いて購入

受賞した子ども達に贈る楯やトロフィーは、その趣旨にご賛同くださった方に協賛金やパンフレットの広告代として浄財をいただいて購入させて頂きました。

## ■敢闘賞

そのひとつが敢闘賞です。これは、建武館の精神を継承するために設けたもので、不撓不屈の精神をもって挑戦し、たとえ負けても自分より強い相手に立ち向かうという建武館らしい戦い方をして我々に勇気と感動を与えてくれた者を称え、敢闘賞を贈っています。

## ■特別賞

自分のことしか興味のない子が多い中で、心からの応援をして試合に臨む仲間に力を与えてくれたり、朝からの長丁場でも気を緩めず自分を律した態度を取り続けたりした者に対して贈る特別賞も設けました。

## ■努力賞

大会当日だけではありません。普段は顔面への攻撃を禁止して稽古していますが、キッズ大会のひと月ほど前から、ヘッドガードを着用しての組手の特訓が始まります。顔面に上段回しげりが容赦なく襲い掛かるという稽古が続くわけです。そんな中においても、怖さに耐えて常に明るく前向きに、地道な努力を続けた者へ贈るのが努力賞です。